

かがやく

第4号

2007. 2. 25発行

発行者

ひたちなか市

企画部女性・国際課

ひたちなか市東石川2-10-1

029-273-0111 (内線1321)

男女がお互いを対等なパートナーとして認め合い共に参画しながら築いていくのが男女共同参画社会です。そして、一人ひとりがその個性と能力を発揮することができる生き方を可能にする社会でもあります。



〈特集〉 地域力を活かして

子どもができた場合に自分も子育てをやりたい、また親世代が高齢となり、介護を行いたいと考えても、男性にとつて現実にはまだまだ難しい状況です。

2000年3月、ブレア首相が企業の競争力と従業員の生活の質を高めるために「ワーク・ライフ・バランス・キャンペーン」を始めました。今、その取り組みが日本でも注目されています。

ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と私生活をバランスよく両立させること」をいいます。この環境が整ってきた社会では、仕事への意欲が向上したり、男性も子どもや家族との関わりを深めたり、趣味や地域活動を行ったり、自分の時間を持つことが可能となります。女性のみならず、男性にもメリットがあると考えられています。男性も女性も、それぞれの希望に沿った人生を送るためには、ワーク・ライフ・バランスの取り組みを進めていく必要があります。今回は、それぞれの個性を活かして「地域で活躍する男たち」を特集しました。

(写真は、男女共同参画強調月間事業の一環として開催した「男女共同参画フェスタ」の様子です。)

シニアパワーで活力あるまちづくり

NPO法人

くらし協同館なかよし



理事長の塚越さん

本郷台団地、東中根団地内の住民が食料品や生活物資を購入してきた生協ハイcoopが閉鎖されたことに伴い、地域の主婦が中心となり生協の店舗に代わる地域の暮らしを支えるための拠点作りを始め、2005年11月にNPO法人を立ち上げました。現在は、塚越教子さんを理事長として約100名（うち男性7名）のスタッフが各自の得意分野で活躍しています。主な活動内容は、次の3つを柱としています。

- ①高齢者の「食」の自立支援と健康講座
- ②生きがい作りのための趣味講座
- ③地元の農家を支援する地産地消活動

惣菜、喫茶コーナー、子育てサポートなどがある

り地域の人々で賑わっています。ボランティア募集には、団地内の主婦や会社をリタイヤした男性たち約60名の応募がありました。オープン後は、ボランティアのスタッフが9つのチームに分かれて活動しています。その中から、3名の男性が取材に応じてくれました。

浅見さんは、朝夕のシャッター開閉担当のほか、趣味講座の地域散策のリーダーとして活躍されています。「ひとりでウォーキングしている人が多いが、月に1日くらいは皆で歩き、草木や鳥などその分野に詳しい人の話を聞きながら散策して交流を深めるのもいいのではないだろうか」と始めたきっかけを話されました。



商品の陳列をする浅見さん

熊木さんは、自治会の体育部長として活躍しています。団地の人たちの健康づくりに協力したいという思いから、経験を活かし、こ

こではニュースポーツやシルバリーハビリ体操の指導をされています。

リハビリ体操について 話す熊木さん



理事長の夫である塚越さんは、妻が頑張っている姿を見て協力しようという気持ちで書類作成、会計事務、そして法人の管理運営に

「男性は縁の下の力持ち」と話す塚越さん



する事務を担当されています。

- ☆男性スタッフからのアドバイス
- 定年の1、2年前から定年後の生活を考える
- 昔の肩書きにはこだわらない
- 定年したら部下はいない
- 女性の立場や気持ちを思いやる
- 気軽に挨拶や声かけをする

話をしていたときの3人はとても輝いていました。シルバー世代の地域での活躍が大いに期待されます。

(Y・K 記)

Let's try cooking!!

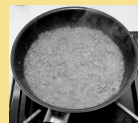
★肉みそスパゲティ★

材料(2人分)

スパゲティ 140g、油 小さじ1、にんじん 18g、豚ひき肉 110g
たまねぎ 120g、水 120cc、もやし 40g、グリーンピース(缶) 10g
調味料…(三温糖 小さじ1、みりん 小さじ1/2、しょうゆ小さじ1
みそ 大さじ3)、片栗粉 小さじ2強、水 大さじ2

<作り方>

- ①にんじん、たまねぎはみじん切りにする。
- ②もやしは1.5cmくらいの長さに切ってゆでる。
- ③鍋に油を熱し、肉、たまねぎ、にんじんの順に炒め、水を入れて15分くらい煮込む。
- ④鍋にたっぷりの湯を沸かし、塩小さじ2を入れスパゲティをゆでる。
- ⑤③に調味料を入れ5分くらい煮て、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ⑥ゆであがったスパゲティに⑤の肉みそ、もやし、グリーンピースをのせる。



★しめじと野菜のスープ★

材料(2人分)

水 360cc、昆布 2g、たまねぎ 20g、ちんげん菜 60g
しめじ 20g、塩 小さじ1/2弱、しょうゆ 小さじ1弱

<作り方>

- ①鍋に分量の水とぬれたふきんでふいた昆布を入れておく。
- ②①の鍋を火にかけ、沸騰したら昆布は取り出しておく。
- ③たまねぎは薄切り、ちんげん菜は短冊に切る。しめじは小房に分ける。
- ④②のだし汁で野菜としめじを煮て、塩としょうゆで味つける。



おやじパワーで子育て支援！ 大成町「おやじの会」

少子化が進み、地域の子育て支援が見直されています。そんな中、市内大成町に町内の父親たちで作った「おやじの会」ができました。

…活動のきっかけは？

現在、「大成町おやじの会」のメンバーは、30～50代の会社員9名です。この年齢も職種も異なる9名が出会ったのは、子ども会のキックベースボールのコーチを引き受けたのがきっかけでした。が、キックベースの活動は5～7月の3ヶ月だけで、その後は、おやじたちの顔をあわせる場所がなくなってしまうました。せっかく子どもたちも、道で会えば照れくさそうながらもあいさつしてくれようになつたので、お互いが1年を通して活動できる場所を作ろう。と「おやじの会」設立の運びとなりました。

しかし、おやじたちの間で話は盛り上がりつつも、肝心の子ども会の会員が集



代表の三ツ井さんの話を真剣に聞く子どもたち

まるか不安でしたが、会員募集したところ、幼稚園生から中学生まで43名の会員登録がありました。それだけ、地域にニーズがあったということとで、反響の大きさに驚いています。

…活動の内容は？

活動は月2回で、球技や昔遊びなどの季節の行事を楽しんでいます。子どもたちからは、「ワクワク、ドキドキして楽しい」「休みの日にみんなと遊べてうれしい」と大好評です。



おやじ VS 子ども

保護者からも「安心して送り出せるので、助かっています」「会のある日は早起きして、30分前には出かけていきます」との声が聞こえてきます。

私たち子どもたちと遊ぶことで、逆にパワーを貰っています。翌日は、筋肉痛になります(笑)

…今後の抱負は？

自分たちも無理せず楽しんでやることで、会を長続きさせたいと思います。そして、夢は、小学1年生で入ってきた子が、中学生、高校生になり、やがておやじ・おふくろになって会に戻ってきてくれることです。

(K・K 記)

『男子厨房に入るべし！』

今回「肉みそスパゲティ」「しめじと野菜のスープ」を作ることに挑戦しました。普段は台所に立って料理をすることはなく、妻まかせなので調理器具、食材の前に四苦八苦。たまねぎとにんじんのみじん切り、煮加減、味加減など料理手順に苦労しました。

料理は「やってみると楽しい」ものです。これからは、機会をみて自分流の料理をして妻に食べてもらって楽しい家庭生活を送りたいと思います。

男女共同参画の第一歩は、男性が家事に参加することだと思います。料理に限らず、食事の後片付けでもごみ捨てでも、まずはできることから始めることで男女共同参画の輪が広がることを希望します。

(Y・Y 記)



ちやししゃきしゃき
肉みそとろ〜り！！



男女共同参画センター

* 女性のための相談窓口

相談専用電話 029-274-3002
(月～金 9時～16時30分)

* 男女共生セミナー開催

いろいろなセミナーを企画しています。
市報でお知らせします。

* 図書・ビデオの貸し出し

家族関係や心理学などの新刊を用意しています。

* 研修室が利用できます。

- ・研修室1 (35名まで)
- ・研修室2 (10名程度)

夜間・土日祝日も利用できます。

お申し込み、お問い合わせはセンターまで
電話・FAX 029-354-0167
(月～金 8時30分～17時まで)

男女共同参画社会とは5つの『や』

- ・やわらかい社会
- ・やりたいことができる社会
- ・やり直しのきく社会
- ・やすらぎのある社会
- ・やさしく楽しい社会



編集後記

☆決して自分から 「やります！」とは言わない分野の経験ができました。いくつになってもチャレンジすることって大切だと思います。それには、男も女も関係ないはずです。はつらつ人生目指して、私も頑張ります。(Y. K)

☆核家族化、高齢化が進むなか、地域で経験を活かして活躍している男性パワーの現状をみて大変心強く感じました。私も一役料理に挑戦し、なんとか完成することができました。ありがとうございました。(Y. Y)

☆取材を通して“サケの遡上”を思い出しました。“地域を故郷に”変えるため立ち上がった父親たち。子どもたちにとって住みよい環境を作るのは、男女の別なく大人の責務だと思いました。(K. K)

デートDVが増えています

彼・・・「お前、コーヒーに砂糖なんて入れてんの？」

彼女・・・「うん、甘いのが好きなんだ」

彼・・・「マジで！砂糖なんて邪道だよ」

彼女・・・「え、そう？おいしいよ」

彼・・・「普通いれないだろう、まずそっ！」

彼女・・・「おかしかなあ・・・」

彼・・・「絶対変だよ、砂糖なんか入れるやつなんて

いないぜ。こどもじゃないんだから」

彼女・・・「そうなんだ・・・」

彼・・・「当たり前だよ、そんなの常識だよ。なんで

そんな事わかんないんだよ!!」

*DVDドメスティックバイオレンス(配偶者等からの暴力)

こんなありふれた会話の中にも精神的な暴力が隠れています。彼は彼女の考え方を全く尊重していません。お互いが対等であるときには、『僕は砂糖を入れないけれど、君は入れるんだね』という相手を認める表現になるのです。

最近、若者の間でデートDV(交際相手からの暴力)が増加の傾向にあります。被害者は、『私のことが好きだから、嫉妬するんだわ』『普段の彼はとてもやさしいし、いつかきつと変わってくれる』と思い我慢します。しかし、暴力がエスカレートして別れたくなくても、さらなる暴力が怖くて言い出せなくなり、

『自分が悪いからこうなってしまった』と自己評価を下げてしまっています。デートDVは、若者が親世代やドラマ、ゲームなどから知らず知らずのうちに女性を見下した見方や考え方を学んでしまい、相手を思い通りに動かしたり、相手の人格や意思を尊重しないで、自分の考えや価値観を押し付けたりする「力と支配の関係」になっていることが根底になって起こります。

どんな理由があろうと暴力を受けていい人などいません。本当の愛情とは、加害者にも被害者にもならない平等な関係であることをしっかりと自覚することが大切です。

もしも、あなたが暴力を受け

てしまったら、両親や信頼できる友達に話をし、学校の教師や県や市の女性相談の窓口、警察などに相談しましょう。

男女共同参画センターでは、女性への暴力をなくすことを、最重要・最優先課題として取り組んでいます。

・県婦人相談所相談専用電話
029-221-4166
・女性プラザ男女共同参画
支援室相談専用電話
029-233-7837